

授業改善アンケート 結果集計表

2020年度前期

分類名	大学全体	履修者数	42682 名
		回答者数	22462 名
		回答率	52.6%

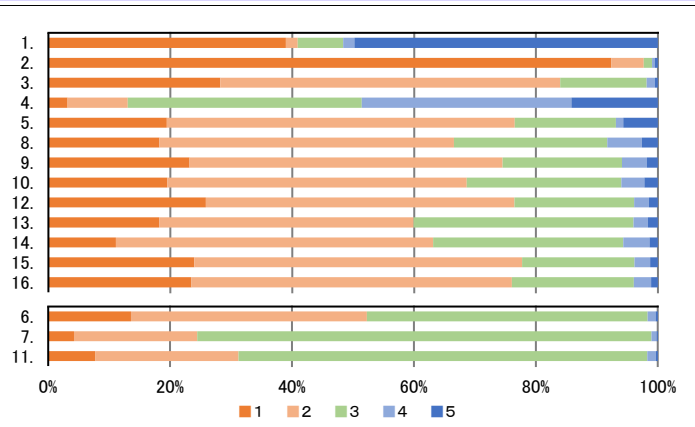
項目別回答分布(Q17は複数回答可)

設 問		大学 平均	平均 (前回)	平均 (今回)	1	2	3	4	5	無効
1.	あなたがこの授業を履修した理由は何ですか。 ① 授業に興味があったから ② 教員に興味があったから ③ 空き時間があつたら ④ 単位が取りやすいから ⑤ 必修科目だから	-.-	-.-	-.-	8757	432	1677	411	11185	0
2.	あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。 ① ほとんど出席した ② 3分の2程度出席した ③ 半分程度出席した ④ 3分の1程度出席した ⑤ ほとんど出席しなかった	4.89	-.-	4.89	20742	1196	305	111	108	0
3.	あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.10	4.13	4.10	6329	12537	3182	303	111	0
4.	1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。 ① 3時間以上 ② 2時間 ③ 1時間 ④ 30分以下 ⑤ 全くしてない	2.53	3.15	2.53	701	2224	8617	7730	3190	0
5.	この授業は「講義内容」(シラバス)を基本にして行われましたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ 講義内容を読まなかった	-.-	-.-	-.-	4364	12825	3720	275	1278	0
6.	この授業の難易度はどうでしたか。 ① とても難しい ② やや難しい ③ 適切 ④ やや易しい ⑤ とても易しい	-.-	-.-	-.-	3049	8691	10351	295	76	0
7.	この授業の進行速度は適切でしたか。 ① 速すぎた ② やや速かった ③ 適切 ④ やや遅かった ⑤ 遅すぎた	-.-	-.-	-.-	946	4541	16746	186	43	0
8.	教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.74	4.21	3.74	4090	10858	5646	1276	592	0
9.	教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.90	4.30	3.90	5201	11533	4400	919	409	0
10.	黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.80	4.12	3.80	4377	11036	5696	849	504	0
11.	各回の提出課題の量はどうでしたか。 ① とても多かった ② やや多かった ③ 適切 ④ やや少なかった ⑤ とても少なかった	-.-	-.-	-.-	1729	5280	15063	320	70	0
12.	この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.97	4.16	3.97	5800	11368	4421	534	339	0
13.	授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.72	-.-	3.72	4079	9383	8100	529	371	0
14.	あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.67	3.82	3.67	2482	11694	7004	968	314	0
15.	この授業の内容は興味深いものでしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.97	3.95	3.97	5378	12080	4144	570	290	0
16.	この授業の総合評価を5段階で評価してください。 ① とてもよい ② よい ③ どちらともいえない ④ 悪い ⑤ とても悪い	3.94	3.91	3.94	5276	11809	4488	642	247	0
17.	この授業を履修して、自分のためになったことは何ですか。 ① 新しい知識や技能が身に付いた ② 新しいものの見方が身に付いた ③ 関連分野をさらに学びたくなった ④ 問題に対する発見能力や解決能力が身に付いた ⑤ コミュニケーション能力が向上した	-.-	-.-	-.-	17197	9123	6101	3709	1030	904
18.	(担当教員独自設問)	-.-	-.-	-.-	505	623	497	227	200	20410
19.	(担当教員独自設問)	-.-	-.-	-.-	316	410	369	102	64	21201
20.	(担当教員独自設問)	-.-	-.-	-.-	226	295	210	79	48	21604

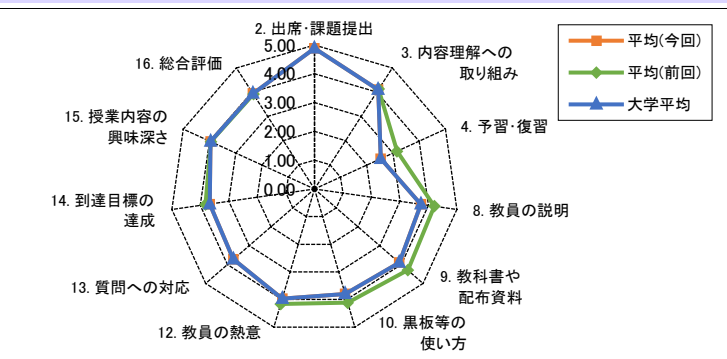
クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均 (今回)	設問16 総合評価					
		1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.06	5088	10591	2651	394	142	0
3. 消極参加(4・5)	2.93	22	96	179	65	52	0
14. 達成度高(1・2)	4.25	4751	8428	871	109	17	0
14. 達成度低(4・5)	2.89	45	309	535	240	153	0

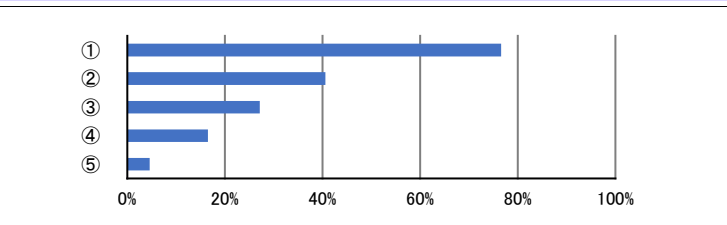
100%横棒グラフ(有効回答のみ集計)



レーダーチャート



Q17. 回答割合(有効回答のみ集計)



授業改善アンケート 結果集計表

2020年度後期

分類名	大学全体	履修者数	37177 名
		回答者数	14022 名
		回答率	37.7%

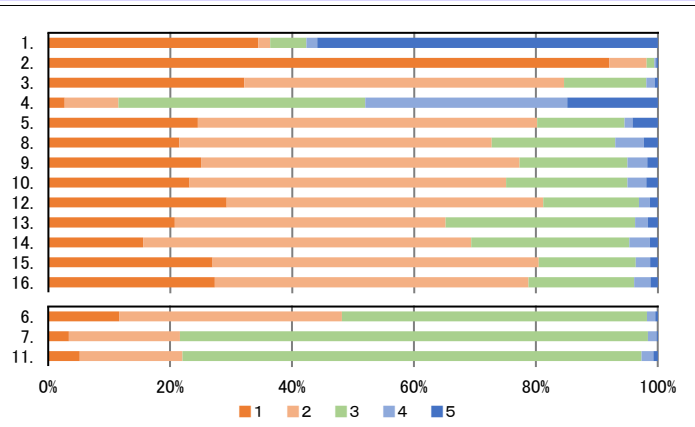
項目別回答分布(Q17は複数回答可)

設 問	大学 平均	平均 (前回)	平均 (今回)	1	2	3	4	5	無効
1. あなたがこの授業を履修した理由は何ですか。 ① 授業に興味があったから ② 教員に興味があったから ③ 空き時間があつたら ④ 単位が取りやすいから ⑤ 必修科目だから	-.-	-.-	-.-	4832	272	828	251	7839	0
2. あなたはこの授業にどの程度出席または課題提出しましたか。 ① ほとんど出席した ② 3分の2程度出席した ③ 半分程度出席した ④ 3分の1程度出席した ⑤ ほとんど出席しなかった	4.89	-.-	4.89	12903	861	174	45	39	0
3. あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.14	4.13	4.14	4508	7356	1889	195	74	0
4. 1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。 ① 3時間以上 ② 2時間 ③ 1時間 ④ 30分以下 ⑤ 全くしてない	2.51	3.15	2.51	378	1236	5675	4644	2089	0
5. この授業は「講義内容」(シラバス)を基本にして行われましたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ 講義内容を読まなかった	-.-	-.-	-.-	3437	7804	2012	185	584	0
6. この授業の難易度はどうでしたか。 ① とても難しい ② やや難しい ③ 適切 ④ やや易しい ⑤ とても易しい	-.-	-.-	-.-	1635	5125	7015	192	55	0
7. この授業の進行速度は適切でしたか。 ① 速すぎた ② やや速かった ③ 適切 ④ やや遅かった ⑤ 遅すぎた	-.-	-.-	-.-	479	2554	10761	203	25	0
8. 教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.85	4.21	3.85	3010	7189	2844	656	323	0
9. 教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.96	4.30	3.96	3514	7326	2482	458	242	0
10. 黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.91	4.12	3.91	3244	7285	2791	435	267	0
11. 各回の提出課題の量はどうでしたか。 ① とても多かった ② やや多かった ③ 適切 ④ やや少なかった ⑤ とても少なかった	-.-	-.-	-.-	727	2365	10559	271	100	0
12. この授業に対する教員の熱意は感じられましたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.06	4.16	4.06	4098	7286	2203	245	190	0
13. 授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.81	-.-	3.81	2909	6230	4359	297	227	0
14. あなたはこの授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	3.79	3.82	3.79	2179	7550	3633	471	189	0
15. この授業の内容は興味深いものでしたか。 ① 強くそう思う ② そう思う ③ どちらともいえない ④ そう思わない ⑤ まったくそう思わない	4.02	3.95	4.02	3775	7505	2228	334	180	0
16. この授業の総合評価を5段階で評価してください。 ① とてもよい ② よい ③ どちらともいえない ④ 悪い ⑤ とても悪い	4.01	3.91	4.01	3831	7215	2428	374	174	0
17. この授業を履修して、自分のためになったことは何ですか。 ① 新しい知識や技能が身に付いた ② 新しいものの見方が身に付いた ③ 関連分野をさらに学びたくなった ④ 問題に対する発見能力や解決能力が身に付いた ⑤ コミュニケーション能力が向上した	-.-	-.-	-.-	11124	6214	4246	2539	1256	454
18. (担当教員独自設問)	-.-	-.-	-.-	381	404	306	123	65	12743
19. (担当教員独自設問)	-.-	-.-	-.-	224	224	279	107	42	13146
20. (担当教員独自設問)	-.-	-.-	-.-	147	186	256	67	28	13338

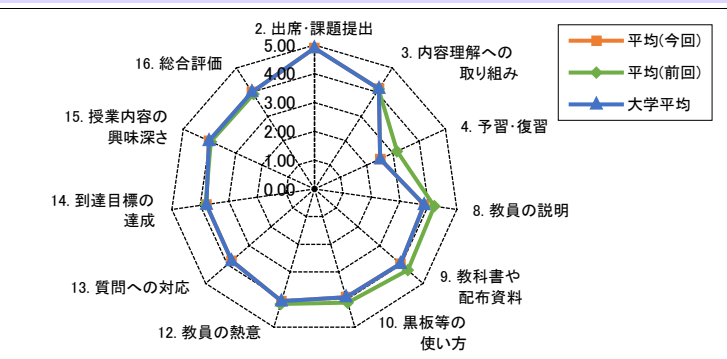
クロス集計(授業参加×総合評価・達成度×総合評価)

クロス集計させる項目	平均 (今回)	1	2	3	4	5	無効
3. 積極参加(1・2)	4.13	3698	6447	1411	218	90	0
3. 消極参加(4・5)	2.96	17	72	97	48	35	0
14. 達成度高(1・2)	4.29	3541	5561	557	60	10	0
14. 達成度低(4・5)	2.77	22	167	221	140	110	0

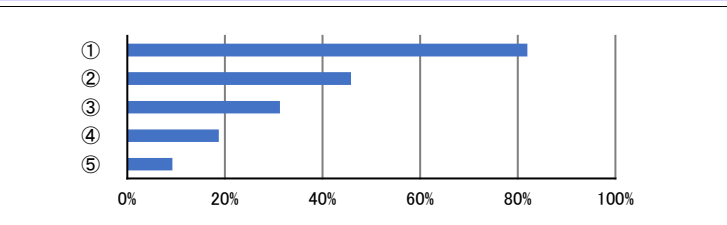
100%横棒グラフ(有効回答のみ集計)



レーダーチャート



Q17. 回答割合(有効回答のみ集計)



2020 年度授業改善アンケート学科取りまとめ

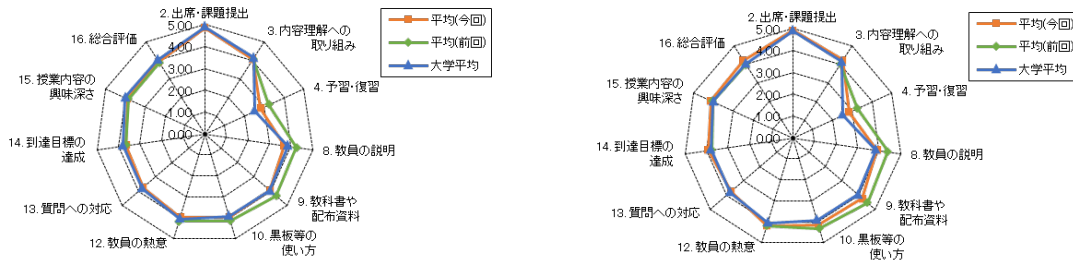


図 1. 生命科学科千住キャンパス（左）と東京西キャンパス（右）の 2020 年度後期の授業改善アンケート結果のレーダーチャート

【授業の良かった点・課題など】

- 2020 年度前期は、突然のコロナ禍の始まりとともに非対面式授業が開始した。その中で学生も大いに戸惑ったと思われるが、大多数の学生は毎回授業の課題を提出し、急な変化へ対応した。多くの難しい点があったと思われるが、「到達目標の達成」、「授業の興味深さ」、「総合評価」から判断すると、学科全体として、例年レベルの授業を維持できたと考えている。
- 前期開始当初は、授業資料と課題を CampusSquare で配布するのみの場合もあったが、大学からの様々な情報提供や学科教員同士での密な情報交換によって、徐々に Zoom での遠隔授業や授業動画の配信が始まっていった。特に、授業動画を YouTube などから何度でも視聴できるようにすると、復習を行う上で非常に役立つと、学生からの評判も高かった。そういった良い点は今後も活用していきたい。
- 教員・学生ともに CampusSquare を利用することが定着したため、学生への連絡や資料配布、学生からの課題提出などが迅速且つ着実に行えるようになった点は収穫と言える。

【「教員の説明」、「教科書や配布資料」、「黒板等の使い方」について】

- 前年に比べ、「教員の説明」、「教科書や配布資料」、「黒板等の使い方」の項目の評価は顕著に低かった。やはり、遠隔授業での資料の提示の仕方などが不慣れで不十分だったと思われる。今後、機器などの導入も含め、オンライン授業を改善していくことが必要である。また、教員ごとに非対面授業で使用するソフトウェアが異なると学生が戸惑うので、ある程度、統一できると良い。
- 一方で、授業での双方向コミュニケーションやノートチェックなどこれまでは行えていた学生の理解度を高めるための細かいフォローが遠隔授業ではできなかった。やはり、コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、可能であれば、できるだけ授業は対面で行って学生の理解深度を深めたい。

【授業時間外の学習について】

- 今回、1回の授業あたりの予習・復習の時間を「1時間くらい」と回答した学生が一番多かった。実際に学生に話を聞くと、「課題」については「予習・復習の時間」と捉えていないようである。課題に加えて1時間程度の予習・復習を行うとすると、他の授業の予習・復習時間も考えると、まあまあ適切な量だと考えている。
- オンライン授業での課題は、ほとんどの学生が全て提出しており、コロナ禍以前からの懸案事項の1つであった「自宅で学習する」という習慣を定着させる機会となったとも捉えられる。
- 与えられた課題だけでなく、自ら考えて予習・復習を行う習慣を身につけてもらうことが今後の目標である。
- 一方で、時間外の学習を「全くしていない」と回答した学生も1割程度おり、この層に関しては、今後改善を図っていく必要がある。

【授業改善アンケートの方法について】

今回、アンケートの回答率が学科全体でも30%程度と低く、正しく学生の全体像を捉えられないかもしれない。学生にとって、自宅でオンラインのアンケートを行う場合、たくさん履修科目がある中で、1つ1つURLにアクセスしてアンケートを行う作業は負担感が強いのではないかと考えられる。アンケートは長くても10分程度なので、学生の負担感を軽減しながらアンケートの回答率を上げるために、学生にURLを伝えて、授業時間内に回答時間を設けるのが良いのではないか。現状では、その際は学生のスマートフォン対応してもらう必要があるので、その点は了解を得る必要がある。

2020 年度授業改善アンケート結果の総括と改善策について

【総括】

2020 年度は前期・後期ともに多くの科目で非対面授業になり、多くの教員が戸惑いながら手探りで講義を行った。前期では 2019 年度対面授業と 2020 年度非対面授業の総合評価を比較すると、千住では見られなかったが、東京西で大きく下がった科目がいくつかあった。これらの結果から、東京西の学生には千住よりもより極め細かな対応をする必要があると思われる。

後期についてみると、2019 年度の対面授業と 2020 年度の非対面授業の総合評価を比較した結果、東京西と千住のいずれのキャンパスにおいても 2020 年度の方が高い値であった。2020 年度後期は前期よりも学生の要望に応えたり非対面授業のスキルを習得したりした結果であると考えられる。

【改善策について】

- ・学生が発表する機会を多く作り、達成感・満足度を高めるように努めたい。
- ・レポートや専門用語などの調べ学習や小テストの実施回数を増やしたりすることで、理解度を確認したり知識を定着するように努めたりするとともに、講義の内容に関連する書籍やホームページなどを記載することで、授業外でも学べる機会を増やしたい。
- ・授業時間以外の学習時間が少ないので、予習・復習に相当する課題をいかに取り組みやすくするかも必要である。
- ・スライドや授業の進みが速いとの指摘があったので、学生の様子を見て質問なども行いながら進めていきたい。
- ・少しでも授業に興味を引くよう身の回り起こるような出来事なども積極的に授業に取り入れていきたい。
- ・配布資料の容量が大きかったのでダウンロードに時間がかかったり、ダウンロードできなかったりしたようなので、ファイルの容量をできるだけ小さくしてアップするように努めたい。
- ・キャンパススクエアの質問にはきめ細やかに対応していきたい。
- ・試験の方法や成績評価については前もってできるだけ詳しく説明するように心がけたい。

【総括】

学生授業アンケートの結果は、多くの項目でアニマルサイエンス学科の評価は、全体平均より高かった。各教員が前期中に得られたアンケート結果をもとに授業改善に取り組んだ結果として評価できると考えられる。

教員の側の意見として、オンラインの授業では、学生に課題をさせるのが、去年より難しかったという意見があった。このことは授業の予復習の取り組みへの、学生の側の評価が低いことと連動していると考えられる。

また学生アンケートでは、教員の熱意についての評価が全体として高く、このことは実際教員が、前期の早い段階でオンライン授業のノウハウを身に着け、学科教員間で共有する仕組みを構築していたことが大きく影響していると考えられる。

学生の側から、授業に関して改善すべき点として多かった意見は、①板書やスライドが見えづらかった、②授業中のスライドショーについて、次のスライドに進むのが速くノートが取れなかった、③レポート提出までの期間が短すぎる、などに集約された。

担当する授業で、改善すべき点を受講学生から折に触れて吸い上げ、その意見をもとに授業にフィードバックを行っている教員に対する学生の評価はそうしない教員に比べて高く、またアンケートにおける苦情は少ない傾向にあるようだ。

【今後に向けての改善策】

引き続き、教員の熱意が伝わるような授業を工夫する必要がある。一方、「コロナうつ」という言葉がある通り、オンライン授業に慣れた学生が、対面での授業やゼミに即座に適應できないケースも考えられるため、各学生に対する細やかな配慮も必要だ。

各授業では、これまでオンライン授業での学生負担に配慮し、課題が多くならないようにしてきた。しかしそのことで、授業時間以外の学習時間・予復習がおろそかになることがないように工夫する。学生に、自主的に勉強、予習・復習をさせる方法を考える。たとえばレポートや専門用語などの調べ学習や小テストの実施回数を増やしたりすることで、理解度を確認したり知識が定着するように努める。

アニマルサイエンス学科内でアンケート結果について討議した。

現状のコロナ禍における遠隔授業が多い点を考慮して、またすでに学生意見のフィードバックを取り入れている教員の意見を参考にした結果、①から③の学生意見に対して、以下のような改善策が提案された。

・コロナ禍での遠隔授業のため板書の機会は減ったものの、必要がある場合には、大きく、

きれいな字で書き、学生にノートを取らせる時間的猶予を与える。

- ・授業後の「コメントシート」記入を実施することで、学生からのフィードバックを講義に活かす。

- ・基本的な講義の構成ではなく、講義資料の共有のタイミングを早めることや、「コメントシート」の実施回数を増やして、フィードバックにこまめに応えるといった取り組みを行って改善を図る。

- ・スライド送りが速くてついていけないという意見に対しては、虫食いの配布資料を配り、キーワードのみ書きとれば良いように工夫する。

- ・コロナ禍での遠隔授業が増え、その結果レポート提出を要求する授業が多い。学生の負担が過剰にならないように、レポートの分量・難易度・提出期限については、配慮する。

2020 年度前後期授業改善アンケートの学科振り返り

1. はじめに

2020 年度の授業改善アンケートを総括するため、まずは理学療法学科の 2020 年度授業実施状況について振り返ります。2020 年度は新型コロナウイルスの影響により、3 月から大学内への立ち入りが制限されました。しかし学びの継続が図れるよう 4 月に遠隔授業の準備を進め、5 月より前期科目のオンライン授業を開始させました。その後も対面授業の開始を見据えて学科独自の感染対策委員会を発足させ、感染対策マニュアルを作成しました。8 月より一部科目において対面授業が可能となったため、学科感染対策マニュアルを遵守しながらの対面授業を再開させました。慣れない遠隔授業の対応や、対面授業を行う際の感染予防対応など、学生や保護者の皆様にも負担の大きかった一年であったと思います(2021 年度現時点では、学生の協力もあり対面授業が継続できております)。これらの経過より、授業形態が例年と大きく異なったことや、Web 上アンケート集計により回答率が低下(前年度より 20%減)したことは、アンケート結果に大きな影響を与えたことが推察され、2020 年度授業改善アンケートと前年度までのアンケートを単純比較することは困難と考えられます。以上のことより、2020 年度の授業改善アンケートは、これまでの経過を考慮して分析や改善点の振り返りをしました。

2. 2020 年度授業改善アンケートの分析および総括

昨年度と比較すると、前後期ともに「授業方法の工夫」、「教員の熱意」などの教員の姿勢に関する項目、「授業に積極的に臨めたか」、「学ぶ大切さを感じたか」などの学生に関する項目など、すべての項目において 0.1~0.5 ポイント程度の低下が認められました。これらの要因として、授業形態の違いが考えられます。

理学療法学科の科目は、職業特性から実際に身体を動かしたり実習したり、体験を伴った内容が多く含まれています。そのため、一科目に複数教員を配置し少人数制で実習や実技が行える体制を整えてきました。また座学でも実際に身体を動かしながら指導するなどの工夫を凝らしてきました。しかし、2020 年度は対面授業が制限されたため、これまでの工夫を活かすことが難しく、学修の困難感を感じた学生が多くいたものと考えられます。「はじめに」で述べた通り、昨年度との単純比較は難しいところですが、2021 年度以降のアンケート結果も踏まえ、継続的な分析を行うことが肝要であると考えています。

次に学生からのコメントを振り返ります。前期では、①遠隔授業の形態に関するコメント(双方向性遠隔授業の希望)、②遠隔授業で使用する授業資料に関するコメント(見やすい、分かりづらいなど)、③遠隔授業で行った小テストに関するコメント(解説の希望)、④授業連絡のタイミングに関するコメント(授業形態や資料について数日前に連絡がほしいなど)が寄せられました。後期では、①双方向性遠隔授業に関するコメント(分かりやすい、集中しやすいなど)、②遠隔授業で使用する授業資料に関するコメント(授業資料印刷費用が学生自己負担となる)、③オンデマンド授業に関するコメント(繰り返し学ぶことができるので良いなど)、④対面授業に関するコメント(実物を前にした授業がとても良かったなど)、⑤対面授業における実技練習時間に関するコメント(授業時間に限らずもっと練習時間がほしい)が寄せられました。

コメントの多くは非対面授業に関する要望で、前期では学生も教員も遠隔授業に慣れていないためか、遠隔授業のシステムに関する戸惑いのコメントが多く寄せられました。一方、後期では学生も教員も遠隔授業に慣れたためか、遠隔授業の方法に対する好意的な意見が多く寄せられました。また、対面授業への好意的なコメントが寄せられ、学生の対面授業への要望を感じる結果となりました。

3. 今後に向けた理学療法学科の改善策

2020 年度は見方を変えれば、非対面授業の質が向上した一年でもありました。理学療法学科では、遠隔授業でも複数方向から実技を見ることができる Web カメラを導入するなど、効果的な授業が行える体制を整えてきました。しかし、アンケート結果からも分かるように対面授業の重要性を学生も教員も痛感した一年となりました。2021 年度以降は対面授業が継続できるように感染対策(教室の使用人数制限、座席指定など)を十分に行い、対面授業の継続に尽力します。また非対面となった場合にも迅速に対応する体制を強化していきます。

2020 年度 授業改善アンケート実施結果に対する学科振り返り

はじめに

2020 年度は、コロナウイルスの影響により対面での授業を行うことが困難であり、リモート機能、Campssquare 機能を用いての学生への掲示、課題の提示、学生の課題提出などを行った。学生及び教員も慣れていないこともあり苦勞した。学生にとっては、教員により授業の方法が異なることや、教員が課す課題の量も多かったりしたことが、負担になっていたと思われる。

通信機器の使用に関しては、学生個々の通信機器のスペックの違いや、通信速度などにより影響を受け、オンタイムでのリモート授業では、つながりにくい状況もあった。

アンケートの集計では、「予習復習」が十分に行うことができなかった。

そのほかでは、「教員の説明」、「教科書や配布資料」、「黒板の使い方」、「教員の熱意」など教員側の問題としてとらえている回答の割合が前回よりも高かった。これらは直接学生の知識等の習得に影響するものであり今後改善する必要がある。

授業改善アンケートを学科全体の教授方法などへ反映していくことが重要であると考えている。

作業療法学科では最終的な目標を国家試験の合格に置いている。そのため最終学年に対する学習支援の改善に取り組んでいるところである。さらに臨床医学、基礎医学などは1年時からの学習が重要であることから、各学年での学習支援を個々の学生ごとに実施することとしている。

また各教員が個々の学生に対して、出席の状況、授業態度、知識習得状況などを確認する方法をとっている。さらに教員がこれらの学生支援としての取り組みを実施しているかの確認も会議の際に定期的に行うこととしている。

作業療法学科では改めて、個々の学生の「知識の習得に対する認識の違い」を理解し、それに対応する方法で学習を進めるようにしている。これは、学生自身が「用語の意味などを理解している」と思っているにもかかわらず実際には「聞いたことがある」程度になっていることが多々ある。このような現実に対して、最終学年は学年単位で用語理解を進める。それ以外の学年は助言担当教員と学生間で行うことや、授業科目として取り組むなどしている。学生自身が用語について他学生に説明できるようになることを目標にしている。そのために有効な資料の活用、説明時に教員と学生がともにホワイトボードを使用する。

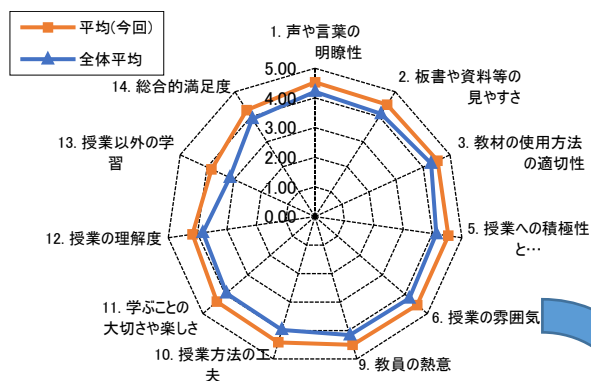
授業また学習の状況については、1、短い授業間隔での確認と学生へのフィードバック、2、フィードバック後の学生の変化の確認と状況に応じた指導、3、確認の例としては毎回の授業内での小テスト、など実施し確認するようにしていく。

アンケート結果 4 予習復習と関連

学生の自主性、積極性に関しては、教員の工夫として興味関心が持てる授業構成とすることが重要と思われるが、この点については単に授業時間のみではなく、大学生活における教員と学生のコミュニケーションに視点を置いた作業も実施することとした。

2020 年 <柔整学科の総合省察>

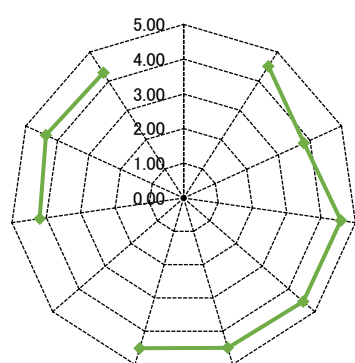
2019 年総合 → 2020 年前期 → 2020 年後期



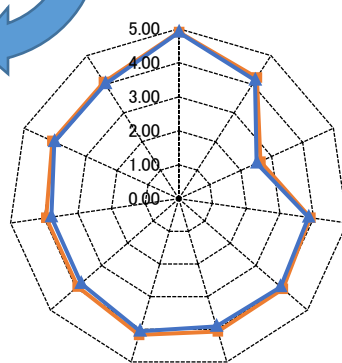
2019 年 総合アンケート結果・・・回答率 90.6%

クロス集計させる項目	平均
5. 積極参加(4・5)	4.39
5. 消極参加(1・2)	1.40
12. 理解度高(4・5)	4.55
12. 理解度低(1・2)	2.25

2019 年 クロス集計



2020 年 前期アンケート結果



2020 年 後期アンケート結果・・・回答率 39.6%

クロス集計	平均
積極参加(1・2)	4.18
消極参加(4・5)	3.00
達成度高(1・2)	4.38
達成度低(4・5)	2.00

2020 後期 クロス集計

1. 2020 年のアンケート省察・・・総合的には回答率 39.6%：あまり統計的には信用できないが・・・

1) 前期→後期：項目・・・「声や言葉の明瞭性」「学ぶこと・・・」以外は・・・平均 0.5P 低下 (11.1%)
 ・全学的に全項目にわたって評価有意低下・・・zoom 教育効果はやはり低下する。

2) 特に 1.0P 低下・「教材の使用方法的適切性」・・・全学的に低下：zoom 講義では教材開発が難しい？
 記述アンケート内容：zoom 講義は「講義に変化がなく、画一的ですぐ眠くなる」「誰の講義か思い出せないの、講義ごとの評価が混乱する・・・特にオムニバス講義」「いろいろな教材を使用するが、すぐに freeze する授業がある」「zoom 使用法を知らない教員が、だんだん機嫌が悪くなる」

2. 2019 年授業→2020 授業の違い・・・2019 年の回答率は 90.6%：目の前で書かせるから当たり前・・・

1) 授業評価：～2019 年まで、全項目にわたり全学平均を 0.55P (10.5%) 上回る・・・有意性あり
 特に「授業以外の学習時間」は全学平均を 1.0P (18.5%) 上回る・・・有意性あり

2) 2020 年度になると・・・全アンケート項目で 0.5P 低下、特に「教材の使用・・・」は 4.5P→2.7P (40.0% 低下)・・・従来の対面授業教材が評価高かった→zoom で教材がなくなった。急に低下。

3) クロス集計の結果・・・

①積極参加：4.39P→4.18P (4.78%低下) ②消極参加：1.40P→3.00P (53.3%上昇)

Zoom 授業は「変化がなく画一的」であり、授業に関心のある学生は無関心化 (ここでは 5%未満)

→これまでどっちでもなかった学生が消極参加の範疇に入って+「従来の無関心」→合計 50%上昇か！

③達成度(理解度)高 : 4.55P→4.38P (3.74%低下) ④達成度(理解度)低 : 2.25P→2.00P (11.11%低下)

Zoom 授業は達成度を求める学生は 5%以下の低下、しかしながら達成度(理解度)低い学生は 11%以上・理解度が高くなった！

2020 年度 授業改善アンケート結果について

【総括】

■授業方法について

[良かった点]

- ・ 「授業内容を理解するための積極的な取り組み」、「授業に対する興味深さ」、「授業に対する総合評価」が増加し、前年度より授業へ取り組む姿勢に改善が見受けられた。
- ・ 「履修して自分のためになった」と感じている学生は多いため、さらに実践的な授業を展開し、専門性を活かした学修機会を提供していく。

[改善点]

- ・ アンケート全体の回収率が、不十分な状況であった。
- ・ 前年度からの比較では、「学生からの総合満足度」に関する項目で微増しているが、大学全体の総合計との比較では、わずかに低下している。
- ・ 各細目において留意する点は、「教員の説明の仕方のわかりやすさ」、「授業に対する予習・復習時間」などが、前年度と比較して、大きく低水準の数値となっている。
- ・ そのため、授業内・外における実技練習のサポートや学習の理解度に応じた提示できる課題学修など自己学習の機会も取り入れ、基礎科目から専門職教育の質を向上させる取り組みを検討していく。

■授業環境について

[良かった点]

- ・ 今回のアンケート結果からは特に見受けられない（自由記述欄を含む）。

[改善点]

- ・ 「教科書や配付資料の効果」は前年度と比較して低水準の数値となっており、授業環境の工夫として、引き続き、取り組んでいく。

【今後に向けた改善策】

[科目に対する意見について]

- ・ 各教科とも授業をより理解しやすくするため、視覚教材や配布物など学習ツールの活用を今まで以上に進めていきます。
- ・ 学生は、専門知識の理解をすすめていくために、下記の自己学習の方法について、確認してほしい。
 - ①「理解不足の原因」のひとつとして「自己学習時間の不足」も一因となり、「授業の理解度」の不十分な学生が一部見受けられます。教科書や授業資料のみならず、大学の図書館などの学内施設を利用し、予習・復習など積極的な自己学習に取り組める環境を整えて下さい。
 - ②「理解不足の原因」を抱える多くの学生からは、「勉強の仕方がわからない」、「専門

用語が難しい」という声が聞かれます。授業内容はわからないままにせず、助言教員や科目担当教員などに積極的に相談し、まずは、勉強の仕方を身に付けてください。

- ③シラバスに記載されている「授業における到達目標」を確認した上で、興味がある分野には積極的に取り組んでください。特に、理解度の低い授業は放置せず、担当教員との関わりを持って、簡単なことでも構いませんので、相談する姿勢を身に付けてください。

[授業の進行について]

- ・ 各科目における授業の進行について、授業内の学修内容が理解されやすいように適切な板書やスライド、資料提示などに取り組んでいく。
- ・ 学生は、自身の課題提出や授業外学修が円滑な授業進行に役立つため、下記の点について、確認してほしい。
 - ①課題レポートなどの提出物は、期限を厳守し指示された体裁に則り提出してください。
 - ②休み時間や授業の空き時間に実習室利用（授業で使用していない場合）を可能としているため、積極的に理学療法技術（実技）の練習に取り組んでください。
 - ③少しずつ学習面に対する相談する学生が増えてきましたが、質問や意見など、学科教員が随時受け付けていますので、遠慮せずに声を掛けて下さい。

【学生の意見と改善策】

1. オンライン授業

【学生意見】

課題提示のみだと内容の理解が困難である。／オンライン授業を多くして欲しい。

【改善策】

課題の場合は、課題提示のみではなく適切な資料を添付したり、提出された課題への返答や解説などのフィードバックを行う。また一定回数はオンライン授業を設けるようにする。

【学生意見】

オンライン講義時間中のカメラオンは通信料やネット環境の面で困難な場合がある。

【改善策】

カメラオンは出席確認時のみ行うようにする。通信環境によってカメラオンによる出席確認ができない場合は、メッセージ機能またはメール機能を使用するなどの工夫をする。

【学生意見】

授業中教員からの指名で答える際、操作上の問題ですぐに答えられない。

【改善策】

学生は通常ミュート状態であり、指名されて答えるにはミュート解除の操作が必要であることを理解する。

※学科意見

オンライン授業については教員側も不慣れな面があった。令和3年度(現状)は原則対面授業を実施しているので、オンライン授業に起因する問題は減少すると予想される。上記以外に、遅刻や問題のある学生指導は講義後に行ってほしいとの指摘があり、このことはオンライン授業のみならず通常授業でも配慮したい。

2. 4年生国家試験対策(オムニバス)科目

【学生意見】

問題を解くだけではなく解答解説もしてほしい。

【改善策】

授業時期にもよる(前期なら学生が調べることに意味があると考え、など)が、問題(国家試験過去問題やオリジナル問題、模擬試験)の解答は必ず提示し、解説は必要に応じて行う。

【学生意見】

科目の重複を減らしその他の国家試験科目の開講を増やしてほしい。

【改善策】

重複している科目の時間の一部を充てるなどの工夫をして、学習支援委員会を中心に科目担当者同士での打ち合わせをより緊密にし、学生にとって効果的な科目開講を検討する。

【学生意見】

課題量が多すぎて、自分のやりたい勉強ができない。

[改善策]

学生の学習状況(分量や時間配分など)を科目担当教員や助言教員などが聴取し、学習支援委員を中心に調整を行う。

3. その他

[アンケート結果]

授業時間以外の予習、復習時間について 30 分～1 時間とした学生が多かった。また、少数だが全くしていないという回答もあった。

[改善策]

柔道整復師になることへのモチベーション向上を図り、学習することの意義を自ら考えてもらえるように促す。

1. 2020 年度前期・後期授業改善アンケート結果

1) 単純集計結果

前期では 53 科目、後期は 27 科目が開講された。授業改善アンケートの単純集計結果の概要は以下の通りである。

授業出席状況に関する質問では、9 割の学生が「ほとんど出席」と回答した。授業の進行速度については、7 割が「適切」と回答した。教員の説明の仕方に関する質問では、7 割以上が「わかりやすい」と回答した。教科書や配布資料については、「授業内容を理解するうえで効果的」とした学生が 8 割ほどを占めた。教員の熱意については、8 割以上の学生が「感じられた」と回答した。教員による質問対応については、7 割ほどが「適切」と回答した。授業の総合評価として、8 割以上が「よい」とした。1 回の授業での予習・復習時間の平均を「1 時間以上」と回答した学生は、6 割ほどであった。当該アンケート結果のレーダーチャート(図 1、2)をみると、各項目の得点は大学平均を上回っていた(5 に近いほど適切)。

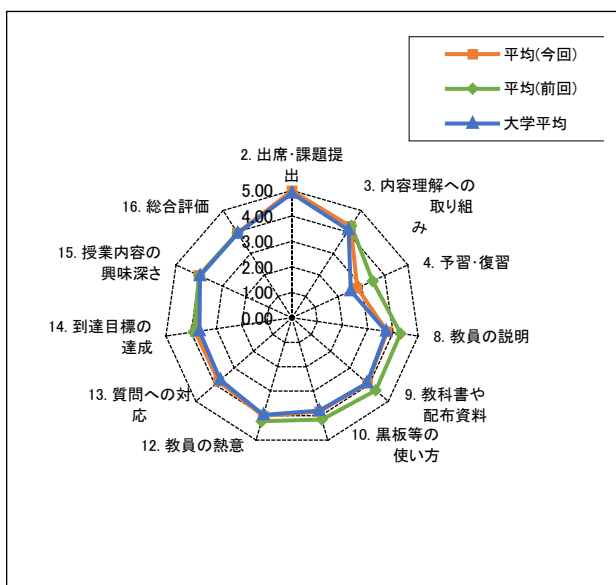


図 1. 前期アンケート結果レーダーチャート

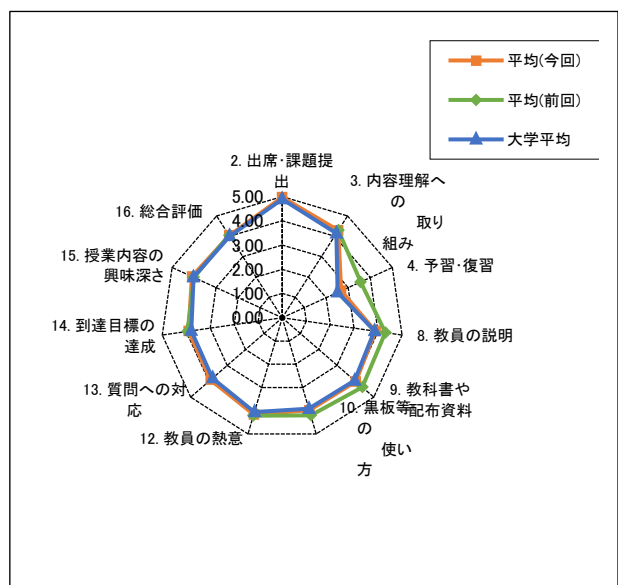


図 2. 後期アンケート結果レーダーチャート

2) 自由回答結果

[肯定意見の一部]

「Zoom 授業だったが、学生の意見を聴く場面が多かったため、学ぶ姿勢を常に持ち続けられた。」

「先生が学生の意見に共感してくれたりフォローしてくれたので、発言しやすかった。」

「先生が課題に対して丁寧に一つひとつ説明してくれたので、自分の足りない部分や良かった点を知ることができた。」

「理解しやすい資料や言葉を用いて説明してくれるため、学習意欲が高まった。」

「資料が見やすく説明も丁寧であったため、真剣に授業に取り組めた。」

「リモート授業で学生が不安を感じたり課題が多い点など、学生の気持ちをしっかり考えてくれた。」

「時間に余裕をもって Zoom 授業資料を出してくださったので、コピー機が家がない私はとても助かつ

た。」

「時間外の質問にも丁寧に回答してくれた。」

「授業では教科書に載っている内容だけではなく、臨床での体験を聴くことができ、先生がどのように子供と接し、どのように困難を乗り越えてきたかなど、実際の経験に基づいて話してくれたため説得力があった。」

「オンライン授業の中でも、頻繁に疑問点はあるか聞いてくれたり、映像とともに教えてくれたのでわかりやすかった。」 など

[是正意見の一部]

「Zoom での授業では、もっとわかりやすく行ってほしい。」

「Zoom 授業をもっとスムーズに行ってほしい。」

「授業資料もなく、教科書を読むことだけでは理解できない。」

「動画の時間がすごく長いために、パソコンの画面をずっと見ているのは辛いので途中で集中力が切れてしまった。」

「講義の内容から、対面授業で行ってもらったほうが理解しやすいし、効率的だと思う。」

「添削した課題を授業当日に返却されても、どこが直されているのかを探すのに時間がかかる。そのため、Zoom 授業時間を有効活用できなかった。課題への添削はもう少し早く返却してもらいたい。」

「全体的に課題の量が多く、ほかの科目との両立が大変だった。」 など

2. 教員による授業改善策に関する記載例

- ・オンライン授業であってもチャットや質問の時間を設けること、また、リフレクションシートを活用することも可能である。今後は上述した方法を導入し学生の疑問に対応できるようにしていきたい。
- ・学生がイメージしやすいようにビデオ映像を多く取り入れていきたい。
- ・Zoom 授業に関するノウハウをより習得できるよう努力したい。
- ・非対面授業では学生・教員間のコミュニケーションが取りにくい環境であることを踏まえ、学生が質問しやすい環境づくりをするとともに、メールや掲示等を使用した説明は全ての学生が理解しやすいよう十分に配慮する。
- ・指定の教科書を使って基本的な知識に関する授業は行えたが、実践的なワークが少なかった。今後は演習形式のワークを増やすことや、授業内での解説や学生にフィードバックする機会を増やす。
- ・学生の素朴な疑問にも答えられるよう、質問を受け付けるタイミングを増やす。
- ・課題の内容や提出期限については改めて検討したい。
- ・理解しやすく学修意欲を高められる授業を心がけたいため、各回のリアクションペーパーや授業改善アンケートへの積極的な回答をお願いしたい。
- ・必要な知識や技術を定着させるには、予習・復習時間は各回 1 時間以上必要である点について認識してもらいたい。 など

2020 年度授業改善アンケートの振り返り

1. 2020 年度授業改善アンケートの振り返り

1) 2020 年度授業改善アンケートの実施を振り返って

授業改善アンケートは、2020 年度より非対面で実施することになり、委員からの科目担当教員への説明と、科目担当教員から学生への説明と依頼が十分でなかったためか、回答率は前年度より下がった。今後は専任教員・兼任教員・非常勤講師、学生への説明および実施方法に関する説明方法の工夫等について、全学的な検討が必要と考える。

2) 2020 年度授業改善アンケートの結果を振り返って

医療福祉学科では、教員と学生の双方が非対面授業の実施について一定程度落ち着いた後期のアンケート結果を基に検討した。結果は「あなたはこの授業にどの程度出席または課題を提出しましたか」が 4.86、「授業内容を理解するために積極的に取り組んだと思いますか」が 4.21 となっており、複数の項目で 4 以上となった。

一方で、より改善したい 4 項目にも着目して検討を行った（表 1 参照）。この 4 項目は、大学平均と学科平均の差は見られないが、非対面授業（オンライン）が中心となった 2020 年度には特に工夫を求められた内容でもあった。

表 1 より改善したい 4 項目

設問		大学	学科
4	1 回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。	2.51	2.64
8	教員の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。	3.85	3.89
9	教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。	3.96	3.98
10	黒板、プロジェクター、添付資料、動画等の使い方は効果的でしたか。	3.91	3.95

※2020 年度医療福祉学科【後期】の集計結果より

そのなかで各教員が工夫をして取り組んだ例について学科内で情報共有を行った。予習・復習を促すために、「国家試験に関する科目は小テストを定期的実施すると伝えた」「予習を兼ねた課題を提示し、期末試験と強く関連していることを伝えた」などがあった。また、配布資料の工夫として、「これまで PowerPoint 資料は 6 分割に設定していたが、学生が書き込みやすいよう 4 分割にした」などがあった。これらは対面授業にも活かせる工夫である。

2. 「授業改善アンケート」に関する教員の自由意見

- ・オムニバス科目は全体評価が難しいため、自由記述を活用して教員への具体的なフィードバックを求めた。学生からは積極的に評価するコメントをはじめ、よりよい学習のための建設的な意見があった。
- ・専門性の高い科目になるほど内容が難しくなる傾向があり、学習課題を細分化して提示するようにした。アンケートでは、学生が着実に理解できたと評価されていた。
- ・科目独自の質問項目を設けたことで、とくに当該科目の学習到達度を把握しやすくなり、次年度の講義内容に反映させている。

2020 年度授業改善アンケートの学科振り返り・公開用文案

令和2年度は新型コロナウイルス感染予防のための非対面授業の実施の影響を色濃く受けた結果となった。

全体

- ・ 実技系科目：実技指導の部分は対面授業であったので、科目によらず内容や授業の構成に「満足」であったとの回答が多かった。
- ・ 非対面形式で実施太科目では後述のようにいろいろな問題が認められた。

説明方法

- ・ 課題学習型授業において、教科書や配布資料、説明のわかりやすさに改善の必要が認められた。
- ・ オンライン授業において、学生の通信環境により円滑な受講（ストリーミング受信）に支障が生じた。

予習・復習（課題）について

- ・ 事前にテキストを配布し予習を促し、ノートのとまとめを行い復習するようこれまで同様に行ってきたが、同一科目で昨年度までと比較すると評価が大幅に低下した。
- ・ オンライン授業で配付した資料をプリントアウトやファイリング等していないが受講生が多く認められ、授業で配付した資料の配布や管理方法の指導に課題が認められた。
- ・ 非対面形式の授業では説明や指導に十分時間が確保できず、課題や受講ノートのとまとめを行っていない受講生が多く見られた。
- ・ 時間外学習「1時間以下」が多くを占めたので、予習・復習課題（の内容や量）を適切に（調節して）提示し、学生が時間をうまく活用してできる課題内容として、学習時間を確保できる（収まる）ようにしたい。
- ・ すべての授業が非対面であった前期において課題量が多いと感じる学生が多くいた。後期には学年頃の週間の時間割を確認して個々の科目の課題量を調整したが、抜本的には解決しなかった（1週間あたりの課題の多さ、次々に迎える提出期限に、オーバーフロー気味となる学生が認められた）。

その他

- ・ 非対面授業において、CampusSquare や学生メールによる授業連絡や課題の指示を確認する習慣が昨年度までなかったその必要性も低かったためか、習慣になっていない学生が多く認められた。後

期後半には丁寧な指導の継続により、ようやく、これらの点も習慣化し、授業外の連絡や指示、課題の提示が徐々にできるようになった。現在ではむしろ対面授業の場合においても、上記の連絡方法を効果的に使用できるようになった点は新たに得た利点と言える。

- ・ 昨年度に比べると「到達目標の達成」、「興味深い」、「総合評価」を除いた全項目で値が低くなっており、非対面型授業の影響が認められた。

（非対面授業について）

非対面授業の 各教員による実施方法の違いにより学生の評価が分かれた。

授業計画や内容によるオンラインと課題学習等使い分けがうまくいき、高評価となる科目があった。

- ・ 完全非対面の前期について：「不安だった」（やや不安/大変不安）と回答する学生が一定数存在し、1年生（同科目Ⅰ）より2年生（Ⅱ）でその傾向が強かった。この結果は一昨年度にすでに対面授業（Ⅰ）を受講し履修した経験があるためと考えられる。
- ・ 1週間の中で多くの課題が集中する状況が発生し、課題の提出期限を長めに設定する必要が認められた。
- ・ 非対面で授業を開講した科目は全体的に低評価だったが、令和2年度の1年間で教員のスキル（授業計画、教材準備やその説明、提示、課題等の方法の選択）が上がり、もしも同じ状況になれば、大きく改善すると考える。
- ・ オンライン授業におけるグループワーク：特定の学生に負担が偏る等の意見が寄せられ、発言や役割等の分担を明確に指示する等の工夫が必要である。
- ・ 従来では予想もしなかった 新しい方法（屋外から自然環境等を中継）を試行し高い評価を得た。この方法は対面授業でも併用可能で、履修学生の興味喚起はじめ授業改善に大いに資すると考える。
- ・ 動画教材を用いたオンデマンド授業：視聴による受講が時間的に自由度が大きくなるため、評価が高かった。
- ・ 実技科目：例年、実技指導と並行して学習する基礎知識について、（前期に）実技指導が出来なかったため、前期に集中して基礎知識に関する指導を行い、後期に実技指導を行うなど大きく実施方法を変えた。その結果、総合評価ではすべて対面で実施した前年度と同等であったため、この方法が有効であることが示され、学習目標が達成できたと考えられる。

2020 年度授業改善アンケート結果について

【授業の良かった点・課題など】

□授業方法の工夫

- ・新学期直前に緊急事態宣言が発出されるという状況の中、オンラインで授業を行うことに対して、できるだけ説明が丁寧に行われたため、学生が授業に参加できないというような状況は起きなかった。
- ・オンラインでの授業の在り方について教員も不慣れで模索しながらの実施ということもあり、学生からの評価も科目ごとに高低差が大きい傾向にあった。資料配布のみの授業は評価が低い傾向にあったため、不慣れである中でも Zoom などによる授業時間共有は理解度、参加度に一定の効果があったものと推察される。
- ・大学で実践的な活動ができないだけでなく、インターネットで配信するという関係上、動画素材が自由に使えず学生が実際の子どもの姿に触れるのが難しい傾向にあった。
- ・前期の課題提出型の授業では、課題の量が多すぎるとの指摘があり、学科会議で時間を設け、教員間で調整を行った。
- ・オンライン授業に初めて取り組み、上述のような多くの試行錯誤がなされたが、前・後期ともに、授業評価によれば、ほぼすべての評価項目で、大学平均を上回っており、ほとんどの科目において、学生の理解度はある程度得られたものと思われる。
- ・授業実施方法が限られる中でも教員は最大限の工夫を行った。ただ、オンライン授業の制約を受けることが多々あり、保育現場での実践力の強化までにつながっていたのだろうか、手ごたえを感じられない授業もあったのではないかと、との危惧もあることも事実である。

□学生の授業参加の取り組み

- ・指定通り課題を提出している学生が多かった。
- ・CampusSquare 上から提出された課題に対しては必ずコメントを返すようにした。質問に対しても同様。学生の理解をさらに促進しなければならない内容について、その次の授業で全体にフィードバックした。

- ・ブレイクアウトセッションなどを活用してグループワークを行い、アクティブラーニングを実施することを試みたが、各ルームが適切に機能しているかを見回ることはできなかったため、オンライン授業の今後の課題であると思う。

- ・オンライン授業（Zoom）を通して、学生個々の授業、課題への取り組みがよく分かる面もあった。また、対面授業と比べ、質問をしてくる学生が多くいたことは収穫である。

□授業以外の学習の時間について

- ・通常授業時と同様だが、遠隔授業時においても学生の自学自習へのインセンティブを喚起できていないことが課題である。

- ・家庭学習の内容を考え、授業時間外の学習の時間を増やしていきたい。

【アンケート結果に基づいた学生への回答】

□教員は、授業実施にあたって学ぶ楽しさを伝えられるよう、様々な工夫をしています。「達成感」「成就感」「満足感」は、積極的に授業に参加する（熱心に聴くことも含め）ことで高まります。

□授業外学習の時間を作り、復習の習慣をつけて下さい。配布されたプリントを読み直し、内容を確認・理解するようにしてください。

□日頃より、保育教材へ関心をもち、自ら教材研究に取り組む姿勢を身に付けてほしいと思います。

2020 年度授業改善アンケート結果のまとめ

1. 全体的な結果

1) 回答率 前期:38.3%(81.2%) 後期:25.7%(79.1%) ()は2019 年度

※昨年度と比べて大幅に低い。前期より後期が低い

2) 大学平均との比較

①上回る項目 前期:Q3 Q4 Q14

後期:Q2 Q3 Q4 Q8 Q12 Q13 Q14 Q15 Q16

②下回る項目 前期:Q8 Q9 Q10 Q12 Q13 Q15 Q16

後期:Q9 Q10

※前期は大学平均を下回る項目が非常に多い(昨年度は1 項目のみであった)。後期は減っている。

3) 2019 年度学科平均との比較

①上回る項目 前期:なし

後期:Q3

②下回る項目 前期:Q3 Q4 Q8 Q9 Q10 Q12 Q14 Q15 Q16

後期:Q4 Q8 Q9 Q10 Q12 Q14 Q15 Q16

※ほとんどすべての項目が昨年度を下回っている。

4) 前後期の比較

①後期が前期を上回る項目 前期:Q2 Q3 Q8 Q9 Q10 Q12 Q13 Q14 Q15 Q16

②後期が前期を下回る項目 前期:Q4

※前期の落ち込みは後期に改善される傾向にある。昨年度の後期は前期を下回る項目が多かった。

2. 学年別・コース別に見た結果

1) 回答した授業科目数(表1:前期 表2:後期)

表1 前期授業科目数

	1年	2年	3年	4年	全体
小学校コース	6	8	5	2	21
理科コース	1	6	5	0	12
保体コース	2	4	7	1	14
英語コース	8	7	-	-	15
小・理共通	1	2	-	-	3
中高共通	2	2	1	2	7
全コース共通	0	1	2	1	4
全体	20	30	20	6	76

表2 後期授業科目数

	1年	2年	3年	4年	全体
小学校コース	9	20	5	1	35
理科コース	1	6	5	1	13
保体コース	1	11	12	1	25
英語コース	7	4	-	-	11
小・理共通	2	-	-	-	2
中高共通	3	1	4	0	8
全コース共通	0	2	0	0	2
全体	23	44	26	3	96

2) Q16(総合評価)の平均値

※大学平均(前期:3.94 後期:4.01) 2019 年度平均(前期:4.12 後期:4.07))

表3 前期 Q16 の平均値

	1 年	2 年	3 年	4 年	全体
小学校コース	4.02	3.94	4.57	4.47	4.07
理科コース	3.27	3.47	3.45		3.44
保体コース	3.62	4.17	4.15	4.35	4.09
英語コース	4.41	3.79	-	-	4.12
小・理共通	4.08	3.70			3.82
中高共通	3.84	3.69	3.85	3.51	3.70
全コース共通	-	3.27	4.26	3.82	3.90
全体	3.87	3.72	4.06	4.04	3.89

表4 後期 Q16 の平均値

	1 年	2 年	3 年	4 年	全体
小学校コース	4.22	4.01	4.29	4	4.11
理科コース	2.5	3.55	4.04	4	3.67
保体コース	4.15	4.03	4.20	3.4	4.09
英語コース	4.05	4.08	-	-	4.06
小・理共通		3.5			3.5
中高共通	4.12	4.36	3.96		4.07
全コース共通		3.5			3.5
全体	4.10	3.92	4.12	3.8	4.03

※学年による差はあまり見られない。

※小学校コース:全学年にわたってほぼ 4 点台を維持している。

※理科コース:4 点台は後期 3・4 年である。

※保体コース:1 年前期、4 年後期の得点が 3 点台である。

※英語コース:ほぼ 4 点台を維持している。

※共通:4 点台は後期 1・2 年である。

3. 考察(所感)

回答率が低い中での結果なので、細かな考察は控えるべきであるが、あえて 2020 年度の傾向を検討すると、大学全体および昨年度学科全体の平均値を共に下回っていることが特徴的である。その原因としては以下の 3 点が考えられよう。

- ①オンライン授業により、通常の対面授業を行うことができなかった。
- ②学校教育学科という学科の特性上、オンライン授業をすることの難しさがあった。
- ③(②に加え)特に実験・実習科目はオンライン授業が難しかった。

しかし、前期と比べ、後期の得点は上昇傾向にあった。このことは、各教員の努力により、特にオンライン授業における授業改善がなされたものと考えられる。

以上

2020 年度・授業改善アンケートの結果に対する改善策

【1】授業に対する評価結果と課題

(1)回答の概要

- ・科目全体の評価では、キャンパス間の差もなく、ほぼ全体平均と一致した。
- ・科目全体の評価では、例年同様、授業外学習の時間は少ない傾向が見られた。
- ・科目全体の評価では、授業内容に対する興味が昨年度よりも高くなった。

(2)改善すべき課題

- ・初めての遠隔授業だったため、特に前期は課題の出し方や量などの目安がなかった。
- ・ZOOM を利用した授業形態は導入しにくく、資料配信型の授業形態が中心になった。
- ・課題過多との指摘もあったが、学生の予習・復習の評価の改善には結びつかなかった。

【2】課題に対する改善策

- ・文書資料だけではなく、動画の利用などによって学生に理解しやすい説明を工夫する。
- ・資料配信型に加え、自由参加で ZOOM による質問時間などを導入して交流機会を設ける。
- ・メールを使った質疑応答や他の学生の意見を資料で紹介するなどの方法で関心を喚起する。

【3】その他の改善策

- ・学生の受信環境などの確認と大学としての対応方針を、早期に示してほしかった。
- ・キャンパス・スクエアによるレポートの回収と評価は、操作性が悪く改善が求められる。
- ・キャンパス・スクエアが学生側からどう見えるのかを確認できる画面を設置してほしい。
- ・今後も遠隔授業を実施する可能性を考え、より機能的な資材の導入などの検討が求められる。
- ・学内での送受信環境の整備や学生への機材の貸し出し体制などの検討も進めてほしい。

2020 年度 授業改善アンケート

【1】総合的見解

- ・全ての項目において大学平均を下回ることはなかった。
- ・しかしながら、前回の平均値より下回った項目は、(3) 授業に積極的に取り組んだ(8) 説明のわかりやすさ、(9) 資料の効果(10) 視聴覚資材の効果(11) 熱意(14) 到達目標を達成したか(15) 授業内容は興味深いものであったか、(16) 総合評価の項目で、前年度の調査よりも下まわった。
- ・教職課程の履修者は30人以下の少人数の場合がほとんどであり、昨年度は対面授業で実施していたために、授業アンケートが高い傾向があった。本年度は、非対面(一部対面)で実施しているために、評価結果が厳しくなった。また、授業担当者が交替したことも要因の一つである。

【2】課題と改善策

- ・以上の結果を踏まえ、授業内容と方法について、あらためて考える必要がある。学生の学習活動に理にかなっているものかという点を教職センター内で再度、検討していきたい。
- ・(4) 予習・復習の時間については、2019年度と比較し、学習時間が増加した。2019年度は3.64であり、学習時間が30分～1時間であることを示す、2020年度後期は2.69であり、学習時間は、1時間～2時間である。遠隔授業によって、学習時間が増えたことがわかる。単位計算の考え方からすると、2時間～3時間が目指すべき時間である。
- ・この点は積極的な結果と考え、非対面授業のメリットも今後、活かしていきたい。
- ・個別授業において、改善策については、各授業アンケートのコメント欄に記載されている。また、個別コメント欄については、提出された課題への個別フィードバックをしてほしいとの記述があった。フィードバックの機会を増やしていきたい。

<基礎医学系科目（解剖学・生理学など）>

2020 年度は非対面授業となった影響もあり、昨年度までの対面授業では、説明の分かりやすさや授業資料使用の適切さ、教員の熱意などが高い評価であった科目ほど、非対面授業ではこれらが伝わり難く、どちらとも言えないと評価した学生が多くなった結果となったようである。いずれの科目も、国家試験において 1 科目での出題数が圧倒的に多く範囲も広い上に、初見の専門用語が 1 回の授業で 100 や 200 を超えることは当たり前であり、まずは専門用語に対する拒否感を減らすために専門用語の解説を丁寧に行うことが必要である。ただし、一度に解説する分量や難易度によっては、多くても少なくとも拒否感を強めることになるため、今後も継続して予習復習を前提としたレポートや小テストを用いて学生の理解度を都度確認しながら講義を行っていきたい。また、学生は各科目の内容を理解することで精一杯であり、残念ながら各科目間でのつながりを理解するまでには至っておらず、授業する立場からしても各科目の分量が多いために、理解するためのヒントを与える程度に留めざるを得ないこともある。各科目間でのつながりを理解することは医療従事者になる上で非常に大切であり、最も楽しく感じられる時間でもあるため、今後も継続して授業内容の進行を各科目の教員間で共有する等、学生の理解が深まるよう努めたい。

<臨床医学系科目（内科学・整形外科など）>

基礎医学系科目とは異なり、非対面授業となったことで、比較的良い影響が出た科目が多かった。その理由として、内容量の多さや難しさ、進行の速さなどで対面授業に十分ついて行けなかった学生も、対面授業よりも丁寧に作成された資料や解説が配布され、自分のペースで学修を進められたために良い影響が出たと考えられる。臨床医学系科目は学生にとって未知の世界に急に足を踏み入れるような科目であるため、まずは臨床（医療）の世界のイメージを持ってもらい、平易な言葉や説明を使うことを心がけて授業を行っている。しかしながら、臨床医学系科目は基礎医学系科目を十分に習得していることが前提となるため、学生にとっては非常に難しい科目となってしまうことも多い。そのため今後も継続して、基礎医学系科目の内容も含めた解説付き資料を配布する、授業冒頭で要点を明示する、国家試験との関連をその都度指摘するなどして、学習意欲が高まるよう促した上で、できるだけわかりやすく授業を行い、授業以外での予習復習もしっかり取り組んでもらえるよう努めたい。

<まとめ（学生の皆さんへ）>

学生の皆さんが国家資格を取得するために習得すべき内容が決まっている中で、ぎりぎりまで難易度を下げて講義をしています。毎年、より分かりやすくなるよう視覚的な情報を増やしたり、平易な言葉で説明したりする等で改善を続けていますが、上位学年であれば下位学年で習得すべき内容をしっかり勉強できていないと、理解はかなり困難になります。また、1 回の授業内容も他の科目に比べて膨大になることも多いため、最低限のレベルを保ちつつも簡潔に理解しやすい講義になるよう、改善していきたいと思います。それでも、学生の皆

さん自身が予習復習等の授業外での学習を行うこと、授業を集中して聞き、できるだけ授業内に理解すること、授業内で理解できなかったことは放置しないでできるだけ早めに質問し解決すること、を心がけた姿勢を取らない限りは、教員が毎回毎年授業の改善を行ったとしても、効果的な授業になることはありません。お互いに効果的な授業時間を過ごせるよう、一緒に改善していきましょう。